

中小企業基盤整備機構田川地区工業用水道事業の紹介

○事業の主旨

田川工業用水道事業の給水区域は、福岡県中南部に位置する田川市である。

当事業は、独立行政法人中小企業基盤整備機構（旧地域振興整備公団）が造成した白鳥工業団地を中心に田川市内の工業生産者への工業用水の安定給水により、地域振興に資する目的で行われた事業である。

○事業の経緯

田川工業用水道は、田川（筑豊地域）の相次ぐ炭坑閉鎖に伴い、新たな産業を国内外から誘致するべく進められていた工業団地造成と併せて産炭地域小水系用水開発事業の一環として行われてきたものである。

給水対象としては、田川市内の工業生産者としており、昭和43年度に取水源である多目的ダム（陣屋ダム）建設事業に着手し、工業用水道の施設も含めて約8年の歳月を経て、昭和51年度に完成、昭和52年4月から給水を開始した。

当該施設は建設後約30年が経っているため、老朽化が激しい箇所も出てきている。今後も厳しい経営環境が続くことが予想されるが、より効率的な運営を行うべく適切な施設規模への見直しや契約給水量の新規開拓等を行いながら安定供給に努めていく。

○ユーザーの概要

（平成20年10月末現在）

業種	給水件数	契約水量 (m ³ /日)
鉱業	1	210
窯業・土石	1	100
食料品製造	7	2,750
その他	6	2,600
合計	15	4,660

○工業用水道施設の概要

田川工業用水道は、1級河川遠賀川水系の中元寺川表流水を河川中流にある灌漑井堰横に設けた取水口で取水し、農業用水路を利用して約700m離れた浄水場へ導水している。

なお、取水口及び浄水場については、給水区域に隣

接する田川郡川崎町にある。

浄水場内では原水に凝集沈澱剤（PAC）による薬品処理のみを行い、沈澱池で沈降処理をした後に、送水ポンプを用いて配水池まで送水している。

配水池からは自然流下により各企業へ配水を行っている。

送水管は、φ600mmのダクタイル鋳鉄管で約1.5km、配水管はφ600mm～150mmのダクタイル鋳鉄管で約4.0kmとなっている。

○事業の特徴

- ・水源に約26,000m³の貯留権を有しているものの、水利権は約9,700m³となっている。農繁期には有している取水権分すらも安定して取水ができない時期があった。このため、安定取水対策用施設として田川市内に20,000m³の貯留施設を平成3年度に整備した。
- ・供給能力としては、25,000m³/日の処理能力を有しているものの、平成15年度の7,870m³/日をピークに契約水量は減少傾向にある。
- ・食料品製造業の需要が高いため、濁度については、1度以下で管理を行っている。

○当該工業用水道のホームページアドレス

<http://www.tagawakousui.com>

○工業用水道給水区域図

